

佳作

5年前と今とその先の私

山形県上山市立北中学校

3年 河村 帆夏

5年前の夏、小学4年生だった私は、家族と鳥取県の境港を訪れていた。水木しげるロードのとあるお店で、5年後の自分に手紙を書いてみませんか、という文と一緒に置かれた木の葉書が目にとまった。私は妹と一緒に5年後の自分宛に手紙を書くことにした。

「私は今、夏休みの宿題地獄にいます。5年後の自分は、勉強をしていますか。5年後の私、勉強頑張ってるね。」と綴り、隣に設置されたポストに葉書を入れ、その場を後にした。この時の私は、大人に近づけば勝手に勉強しているだろう、というばかりの考えが頭に浮かんでいた。

2023年8月、今私の手元には5年前の自分が書いて送ったあの葉書がある。書いた内容なんて覚えていなかった。来たとき分かった時、一体どんなことを書いたのかが気になり、かけ足で外にあるその葉書を取りに行った。内容を見た。私はその場で立ちつくすことしかできなかった。

2023年を生きる私は、2018年を生きる私に、勉強を頑張っている、と胸を張って言えるのだろうか。

手紙を送った日からちょうど5年の月日が流れた。この夏私は家族と共に、今度は信州長野を訪れた。旅の目的は、私の高校受験合格祈願だそう。神だのみならぬ仏にすがり、御祈禱をうけ、絵馬に願いをしたためた。その時引いたおみくじには、努力すればいつの間にかその願いを達成していると書かれていた。願いがかなうよう、しっかりとそのおみくじを結びつけてきた。

2023年を生きる私は、願いをいつの間にか達成させられる努力をしている、と胸を張って言えるのだろうか。

松本市美術館を訪れた際、松本市出身の画家、草間彌生さんの作品に触れる機会があった。1929年生まれの草間さんは、つらく長い戦争中の生活を経験された。10歳の頃から統合失調症、強迫神経症を患っていたと言われている。統合失調症がどんな病気なのか母に聞いたり、インターネットで調べたりしてみた。実際には見えたり聞こえたりしないものが見えたり聞こえたりする症状がある精神疾患のようだ。無意味だと分かっているが、何度も確認せずにはいられなくて日常生活を送るのが困難なものが強迫神経症だという。松本市美術館のエントランスに一步足を踏み入れた時、これまで感じたことのない衝撃を受けた。と同時に激しく心をゆさぶられた気がした。草間さんはかかえてい

る病によって起こる幻覚や幻聴から逃れようとして、心の苦しさを少しでも紛らわせたくて、くり返し水玉を描いていると言われている。

2023 年を生きる私は、苦しみを表出したり、対処したりして前向きに生きている、と胸を張って言えるのだろうか。

私は、将来、人の悩みや苦しみと向き合いながら寄りそい、少しでも今幸せだ、と感じてもらえるような仕事に就きたいと考えている。

人の痛みや苦しみに共感するには、まず、自分自身の心の傷やくせに気づき、改善する努力が必要だと私は思う。自分の心から逃げずに真っすぐ向き合い、自立した大人、と言い切れる人間になるために、今、誰かのためではなく夢をかなえる自分自身のために努力をすることを怠らなければ、10 年後・20 年後、今はまだはっきりとしていない漠然としている夢が、もっと形になって、はっきりとした現実になっているだろう。5 年前の自分に勉強を頑張っていると、今の自分に、願いをいつの間にか達成していたと、苦しさを表出し、対処して前向きに生きている、と胸を張って言えるように私はなりたい。そうなるために、まずは言い訳をせず、現実と向き合ってこれからの生活を送っていかないか、2023 年の今を生きる私。